

「ふるさとCo-LEADプログラム」ガイドライン

経済産業省委託「令和3年度戦略的基盤技術高度化・連携支援事業
（高度デジタル人材による地域中小企業デジタル化支援可能性調査）」



目次

はじめに	P2
------	----

1.ふるさとCo-LEADプログラムの実施事項

実施事項の全体像	P5
実施事項の概要	P6

2.ふるさとCo-LEADプログラムの設計指針

A-1.高度デジタル人材に期待する役割の設定	P9
A-2.人材募集	P13
A-3.ミートアップイベントの開催	P15
A-4.人材の関心に応じた情報提供（人材募集含む）	P19
B-1.候補企業の要件整理	P21
B-2.地域中小企業募集	P23
B-3.経営課題抽出/人材ニーズの具体化	P25
B-4.人材の関心に応じた情報提供（人材募集含む）	P29
B-5.フィールドワークツアーの実施	P31
B-6.企業と人材による協働プロジェクトの伴走支援	P35

はじめに

本ガイドラインは、自治体等が主体的に、大都市圏に偏在する高度なデジタルスキルを有する人材（以下、「高度デジタル人材」）を地域の関係人口にした上で、地方の中小企業（以下、「地域中小企業」）のデジタル化支援につなげるための指針として作成いたしました。

ガイドラインの作成に当たっては、「令和3年度戦略的基盤技術高度化・連携支援事業（高度デジタル人材による地域中小企業デジタル化支援可能性調査）」において、北海道北見市、三重県桑名市、沖縄県の3地域を実証フィールドとして、高度デジタル人材と地域及び地域中小企業をマッチングし、地域中小企業の新たなビジネスモデル案を協働で作成する実証プログラム（ふるさとCo-LEADプログラム）を通じて得られた知見を基にしています。

本ガイドラインを参考に、自治体等が主体的に取り組んでいただくことで、高度デジタル人材と地域中小企業による「協働プロジェクト」が創出され、地域中小企業の競争力強化、さらには地域経済の発展及びウェルビーイングの向上が実現されることを期待いたします。

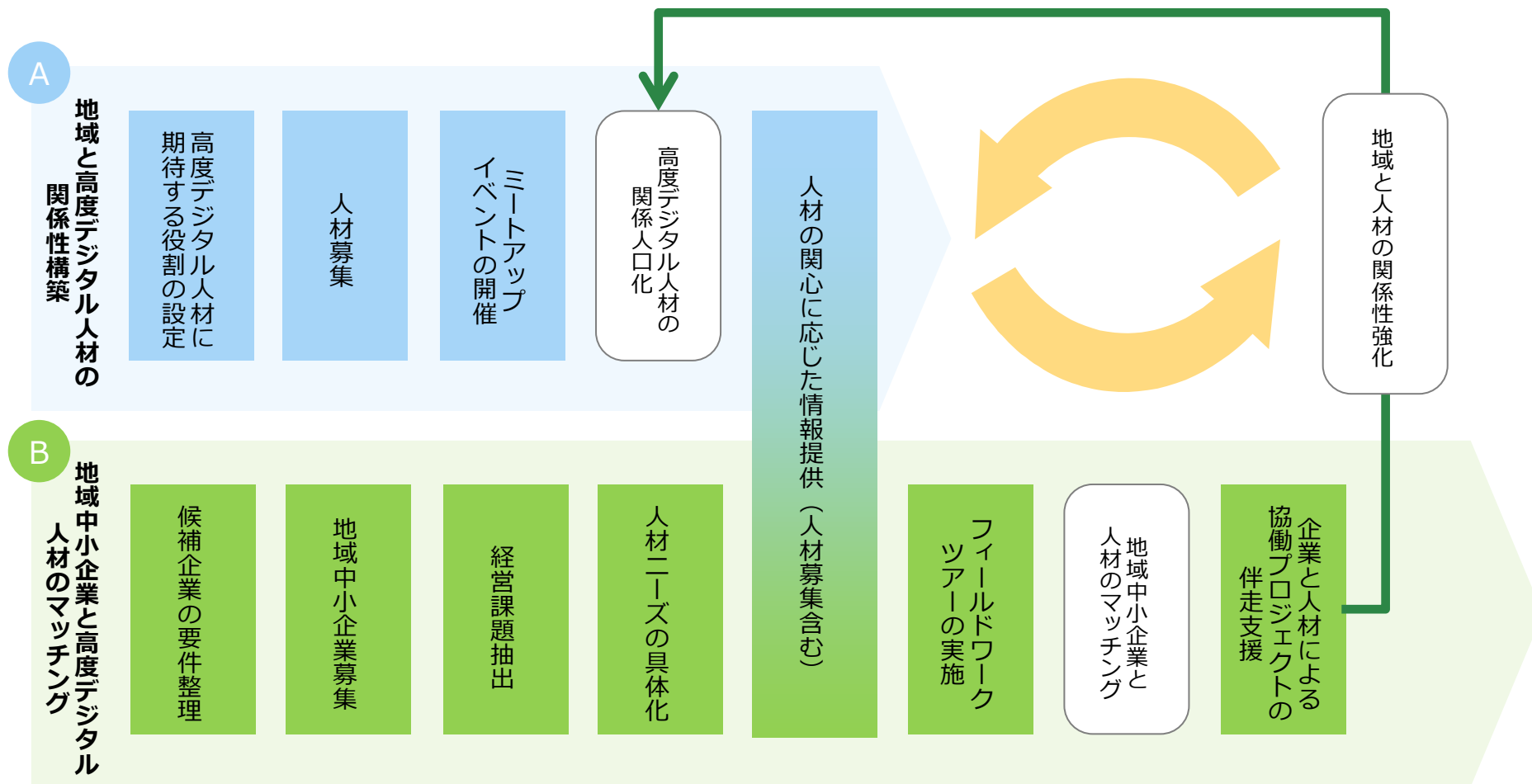
This image shows a blank sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

1.ふるさとCo-LEADプログラムの実施事項



実施事項の全体像

高度デジタル人材との継続的な関係性を築くためには、まずは地域のファンになってくれる高度デジタル人材を募集し、関係人口化を図ることが有効と考えます。これにより、一社限りではなく、数ある地域中小企業と高度デジタル人材がマッチングしやすくなり、協働実績を積み重ねることにより、地域と人材の関係性強化にもつながると期待されます。



実施事項の概要

高度デジタル人材の地域関係人口化に向けては、「A.地域と高度デジタル人材の関係性構築」と「B.地域中小企業と高度デジタル人材のマッチング」の2つの取組が必要となり、同時並行で両方の取り組みを進めていく必要があります。

A

地域と高度デジタル人材の関係性構築

1.高度デジタル人材に期待する役割の設定

高度デジタル人材に地域でどのような役割を果たしてもらいたいのか、そのためにどのようなインセンティブを付与するかを併せて検討する。

2.人材募集

関係人口として地域で活動する人材を募集するために、SNSや広告、民間人材サービス事業者等が提供するサービス等具体的なアプローチを検討する。

3.ミートアップイベントの開催

地域の魅力や課題についてカジュアルに意見交換するためのオンラインイベントを開催し、地域からの期待を伝えと共、高度デジタル人材の考えを確認する。

4.人材の関心に 応じた情報提供 (人材募集含む)

地域のイベントをはじめとした情報をメールマガジンやSNSを通じて発信したり、フィールドワークツアーの実施に係る情報を発信したりすることで、関係人口となった高度デジタル人材の地域への関心をより高める。
また、フィールドワークツアーの実施が決まれば、参加を呼び掛ける。

B

地域中小企業と高度デジタル人材のマッチング

1.候補企業の要件整理

高度デジタル人材との協働が見込まれる地域中小企業の要件を整理する。

2.地域中小企業募集

「B-1.」で整理した要件に該当する地域中小企業を募集する。

3-1.経営課題抽出

高度デジタル人材とマッチングを行う上で必要となる地域中小企業の基礎情報を収集すると共に、デジタル化が必要なフェーズを検討する。

3-2.人材ニーズの 具体化

プログラムに参加する地域中小企業がデジタル化を必要とするフェーズに応じて、必要となる人材像を個社ごとに検討する。

5.フィールドワーク ツアーの実施

高度デジタル人材と地域中小企業をマッチングすることを目的に、現地視察・意見交換、協働の方向性を提案するためのオンサイトツアーを実施する。

6.企業と人材による 協働プロジェクト の伴走支援

高度デジタル人材と地域中小企業をマッチングした後、プロジェクトを円滑に進められるよう、必要な情報提供や進捗管理を適宜実施する。

Memo

[illegible]

2.ふるさとCo-LEADプログラムの設計指針



A-1.高度デジタル人材に期待する役割の設定

高度デジタル
人材に期待する
役割の定義

人材募集

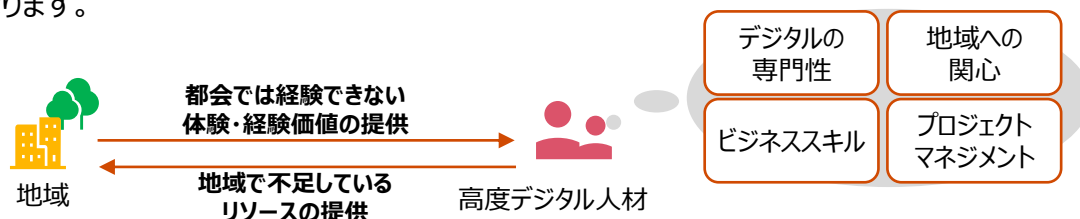
ミートアップ
イベントの開催

人材の関心に
応じた情報提供
(人材募集含む)

高度デジタル人材に期待する役割を設定するためには、地域が期待することだけでなく、地域として高度デジタル人材に提供できる価値や関係人口として活動してもらうためのインセンティブについても併せて検討することが重要です。

地域と高度デジタル人材との関係性

地域と高度デジタル人材は、地域が一方的に支援してもらう関係性ではなく、地域は高度デジタル人材に対して都会では経験・体験できない価値を提供し、高度デジタル人材は地域で不足している知見・ノウハウを提供するという**win-winかつ対等な関係性を築くことが重要**です。そういった関係性を築くために地域として提供できる価値と地域が提供してもらいたい価値を検討し、**高度デジタル人材に関係人口として地域でどういった活躍をしてもらいたいかを検討し、設定**することが重要となります。



■ 具体的な手順

STEP1

地域の魅力の棚卸

地域での活動に関心がある人材は、金銭的な報酬や本業への直接的なリターンではなく、地域課題の解決や地域の人との交流、同じような志を持つ人材との交流といった本業では体験・経験できないことを期待しています。地域ならではの魅力を整理し、高度デジタル人材に提供できる価値を検討することから始めてください。

STEP2

地域における
課題の棚卸

地域には魅力がある一方で、地域のリソースだけでは解決できていない独自の地域課題があると思います。視野を広げて検討してみてください。

STEP3

高度デジタル人材に
期待することの検討

5年後、10年後を見据えてどのような地域にしていきたいかビジョンを検討してください。そのビジョンを実現する上で、現在ぶつかっている壁や、リソース不足で対応できていないこと、どのように取り組みを始めたらいかが分からないことを考えてみてください。

STEP4

高度デジタル人材に
対するインセンティブの
検討

地域の魅力や地域の課題、地域のビジョンに貢献できることは高度デジタル人材にとって十分なインセンティブとなりますが、一度限りの関係性ではなく、**地域での活動に繰り返し参加してもらうためには活動実績に応じて称号や特産品、地域で利用できるクーポン等のインセンティブを付与することが有効**と考えられるため、地域としてどのようなインセンティブを用意できるか検討してください。

A-1.高度デジタル人材に期待する役割の設定ワークシート

下記のワークシートを使って、地域の魅力や課題、高度デジタル人材に期待することを整理し、どのようなインセンティブを提供できるか検討してください。

検討のヒント

STEP1

地域の魅力の棚卸

●どのような地域か端的に書き出してください。

地域の
産業

地域の
観光資源

地域の
特産品

地域の
繋がり

高度デジタル人材に提
供できる環境

●発信していきたい地域の魅力は何ですか？

STEP2

地域における
課題の棚卸

●地域が直面している地域課題は何ですか？

少子
高齢化

若者の
流出

インフラの
老朽化

ICT化の
遅れ

観光客の
減少

観光客の
減少

A-1.高度デジタル人材に期待する役割の設定ワークシート

検討のヒント

STEP3

高度デジタル人材に期待することの検討

●5年後、10年後どんな地域にしていきたいですか？ビジョンを書き出してください。

●ビジョンを実現する上で壁となっていることは何ですか？

STEP4

高度デジタル人材に対するインセンティブの検討

●繰り返し地域に貢献してもらうために、地域として何か提供できますか？

地域独自の
称号

地域内
クーポン

活動実績
の証明書

地域の
特産品

地域を訪れた際の
作業スペースの開放

This image shows a blank sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

A-2.人材募集

高度デジタル
人材に期待する
役割の定義

人材募集

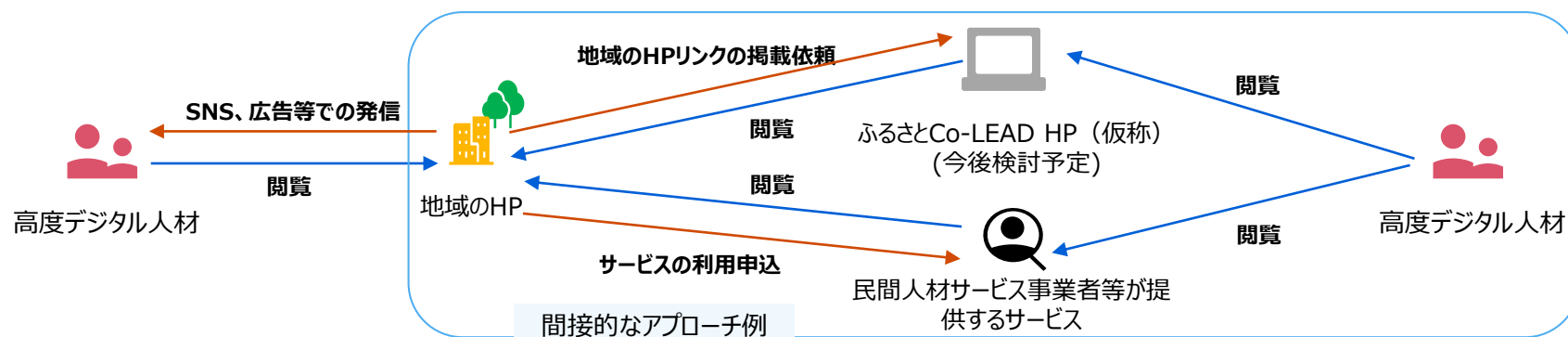
ミートアップ
イベントの開催

人材の関心に
応じた情報提供
(人材募集含む)

関係人口となる人材を募集するためには、SNSや広告等を使って地域から高度デジタル人材に直接アプローチする方法と、民間人材サービス事業者等が提供するサービス等を活用して間接的にアプローチする方法があります。

高度デジタル人材の募集方法

高度デジタル人材を募集するためには、「A-1」で整理した地域の魅力、課題、高度デジタル人材に期待することなどを発信するためのHPを開設する必要があります。その上で、**開設したHPに高度デジタル人材を誘因するためのアプローチ**を行う必要があります。アプローチの方法は地域が独自で行う直接的なものや民間人材サービス事業者等が提供するサービス等を活用する間接的なものがあります。地域の予算に応じて間接的アプローチを活用することで地域が求める人材像に近い高度デジタル人材にアプローチできる可能性が高まりますので、必要に応じて検討してください。



■ 具体的な手順

STEP1

直接的なアプローチの
検討

SNSやWeb広告への出稿、ターゲティングメール等を活用し、地域において関係人口による地域中小企業のデジタル化支援の取組を実施していることを高度デジタル人材に対して直接PRします。地域への移住等の情報発信チャネルや連携機関を活用することで効率的にPR体制をつくることができます。

STEP2

間接的なアプローチの
検討

今後、検討が期待される「ふるさとCo-LEAD」HP（仮称）に地域のHPリンクを掲載したり、副業や兼業で地域での活動に参加することに関心の高い人材のデータベースを活用したサービスを提供している民間人材サービス事業者（リクルート「サンカク」、ETIC「Yosomon」等）や内閣府が各府県に設置している「プロフェッショナル人材拠点」と連携したりと一部有料のものも含まれますが、外部サービスを活用して間接的に高度デジタル人材にPRします。

A-2.人材募集ワークシート

地域から高度デジタル人材に直接アプローチする方法の検討にあたり、既存の移住促進で実施している施策等についてワークシートを使って棚卸し、活用できる施策等について検討してください。

検討のヒント

STEP1 直接的なアプローチの 検討

- 地域への移住等に関する情報発信に活用している媒体は何ですか？

HP等の
電子媒体

チラシ等
の紙媒体

- 地域への移住等に関する情報発信をするための拠点はありますか？

都心のアンテナショップ
やサテライトオフィス

移住支援センター

- 地域への移住等に関する施策で連携している機関はありますか？

民間人材
事業者

NPO
法人

移住支援
機関

他自治体

- 上記で棚卸したもので高度デジタル人材へのアプローチに活用できるものは何ですか？

情報発信媒体

情報発信拠点

連携機関

STEP2 間接的なアプローチの 検討

- 人材の募集にあたって、どのような民間のサービスは利用しますか？

☐ 利用しない

☐ 副業マッチングのプラットフォーム ☐ 副業マッチングのイベント

☐ ターゲティングメール・DM ☐ 副業の人材紹介

A-3.ミートアップイベントの開催

高度デジタル
人材に期待する
役割の定義

人材募集

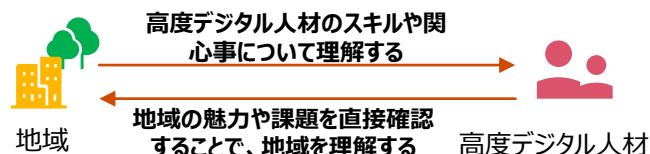
ミートアップ
イベントの開催

人材の関心に
応じた情報提供
(人材募集含む)

地域と高度デジタル人材の関係性を構築するために、地域の魅力や課題等について説明するとともに、地域が高度デジタル人材のことを理解するためにミートアップイベントを開催します。開催にあたっては、相互理解を図るために双方向なコミュニケーションができるような工夫が重要です。

ミートアップイベントの開催

高度デジタル人材が地域の関係人口となることで、地域との継続的な関係構築が期待されます。そのため、**まずはミートアップイベントを開催し、地域に関心を寄せている高度デジタル人材向けに地域を紹介することによって地域と高度デジタル人材の縁を作り、地域の関係人口化を図ります。**



■ 具体的な手順

STEP1 開催概要の検討

ミートアップイベントでは、より多くの高度デジタル人材に参加いただくために、下記の工夫をしてください。

- 開催形態：**オンライン開催**とし、遠方の高度デジタル人材でも気軽に参加しやすくする
- 開催日程：**土日もしくは平日夜間での開催**とし、企業等に勤務する高度デジタル人材が参加しやすくする
- 開催時間：**1時間半～2時間程度で開催**とし、高度デジタル人材の参加のハードルを下げる

ミートアップイベントは地域に関心を持った高度デジタル人材と関係性を作る第一歩です。地域のPRだけでなく、地域と高度デジタル人材がお互いを知り、対等で信頼しあえる関係性の土台作りを意識して、形式ばらず**フランクな雰囲気を作ること、双方向のコミュニケーションができるようにすること**に留意してください。

STEP2 プログラムの検討

実施事項	実施上の工夫
趣旨説明(15分程度)	プログラムの全体像、高度デジタル人材への期待や地域の想いを伝える。
地域紹介(20分程度)	地域の魅力、現状と課題について資料を用いて説明する。 ・ 魅力は視覚的に伝えるために、画像や映像を用い、キャッチコピー等も伝える。 ・ 人口動態や産業構造の推移など統計データを用いることで、課題等を具体的に伝える。
グループディスカッション(30分程度)	オンライン会議ツールのブレイクアウトルーム機能を使い、高度デジタル人材を5名程度のグループ分け、高度デジタル人材の自己紹介、地域課題の詳細について意見交換を行い、地域と高度デジタル人材の相互理解を深める。
地域中小企業の紹介(15分程度×3)	高度デジタル人材が支援イメージを持てるよう、地域中小企業候補の事業概要、経営課題やビジョン等を紹介する。地域中小企業の担当者にも参加いただくことが有効となる。
今後に関する説明	フィールドワークツアーの概要や今後のコミュニケーション方法を説明する。

A-3.ミートアップイベントの開催ワークシート

下記のワークシートを使って、ミートアップイベントの開催骨子を検討してください。

STEP1

開催概要の検討

●開催日程候補はいつですか？

●使用するオンライン会議ツールは何ですか？

●地域紹介で高度デジタル人材に伝えたい地域の魅力は何ですか？

●地域紹介で高度デジタル人材が地域を理解するために伝えるべき地域課題は何ですか？

●グループディスカッションで意見交換したい地域の魅力・課題は何ですか？

STEP2

プログラムの検討

A-3.ミートアップイベントの開催ワークシート

STEP2

プログラムの検討 (つづき)

- 地域企業として紹介する候補企業を書き出してください

- ミートアップイベントに参加した人材とのコミュニケーションをどのように行いますか？

Memo

[illegible]

A-4.人材の関心に応じた情報提供 (人材募集含む)

高度デジタル
人材に期待する
役割の定義

人材募集

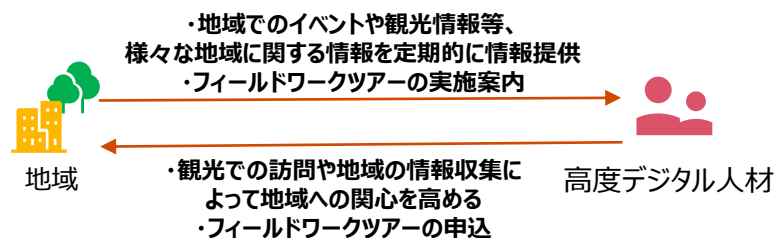
ミートアップ
イベントの開催

人材の関心
に応じた情報提供
(人材募集含む)

ミートアップイベントで関係人口となった高度デジタル人材との関係性を維持するために、人材の関心に応じた情報提供を継続的に行うことが重要となります。また、フィールドワークツアー実施時には、募集・選定を行う必要があります。

情報提供の役割

ミートアップイベントで高まった高度デジタル人材の地域への関心も、フィールドワークツアーの人材募集までの期間が空くと、下がってしまいます。そこで、地域でのイベントや観光情報等を定期的に発信し、自発的に地域に観光で訪れたり、地域のことを調べたり、**地域のことをもっと知ってもらうためのきっかけ作り**として積極的に情報提供してください。また、フィールドワークツアーの企画が固まってきたら、段階的に情報を公開し、期待値を高めると共に、募集に向けた準備を始めるようにしてください。



■ 具体的な手順

STEP1 提供する情報の検討

地域の観光やイベントといった地域を訪れてみたいと思う情報や、地域中小企業のイメージを持ちやすくするための産業に関する情報、地域で活躍する人材に関する情報等、様々な地域に関する情報を定期的に提供してください。

STEP2 情報提供方法の検討

メールマガジンで高度デジタル人材に対して一斉配信することも可能ですが、地域における高度デジタル人材のコミュニティを形成する観点から、情報発信は地域からだけでなく、高度デジタル人材からも地域やデジタルに関する情報を発信できるようにしたり、地域が発信した情報にリアクションをとれるようにしたりすることが有効です。そのため、FacebookやSlack、LINEといったSNSを活用して、双方向の情報提供ができるように検討してみてください。

STEP3 地域中小企業の課題に 応じた人材の募集

フィールドワークツアーには、プログラムに参加する地域中小企業が「B-3.経営課題の抽出/人材ニーズの具体化」で整理した経営課題および人材ニーズに適合した人材を呼び込むことが重要となります。ミートアップイベントで意見交換した際に、条件に適合する人材と出会っていた場合は、積極的に参加を呼び掛けてください。参加を呼び掛ける際には、地域や地域中小企業からの期待を伝えることが有効です。

A-4.人材の関心に応じた情報提供（人材募集含む）ワークシート

■ワークシート（人材への情報提供の検討）

STEP1 提供する情報の検討

- どのような情報を提供していきますか？

☐観光情報 ☐イベント情報 ☐地域課題 ☐産業に関するニュース

☐地域の時事ネタ ☐地域で活躍する人材 ☐その他（具体的に：_____）

STEP2 情報提供方法の検討

- どのような方法で人材に情報提供しますか？

☐メールマガジン ☐グループチャット ☐SNS ☐その他（具体的に：_____）

- どれくらいの頻度で情報提供しますか？

☐週に1回 ☐隔週 ☐月に1回 ☐随時

- 情報発信は誰が担当しますか？

STEP3 フィールドワークツアーの 人材募集・選定

- ミートアップイベントの参加者に、B-3で整理した人材ニーズに適合する人材いましたか？

☐はい ☐いいえ➡（「いいえ」の場合でも、参加者でチームを組めば人材ニーズに近づく場合は、次の質問へ）

- 適合する人材がいた場合は、その方の名前と地域/地域中小企業からの期待を教えてください。

名前	地域/地域中小企業からの期待

B-1. 候補企業の要件整理

候補企業の
要件整理

地域中小企業
募集

経営課題抽出・
人材ニーズの
具体化

人材の関心に
応じた情報提供
(人材募集含む)

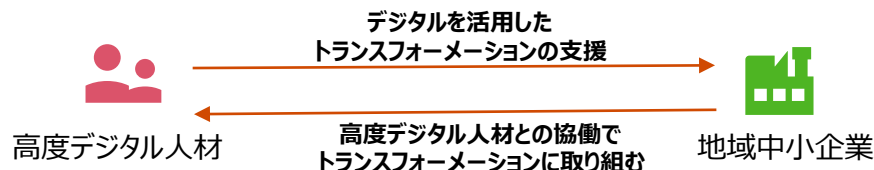
フィールドワーク
アーの実施

伴走支援

高度デジタル人材と地域中小企業の協働プロジェクトに取り組むに当たっては、地域中小企業にも負担が生じます。協働体制をとれるか事前に確認した上で、候補企業を要件整理することが重要です。

協働プロジェクトに参加する地域中小企業に求めること

本プロジェクトは、**地域中小企業と高度デジタル人材の「協働」によって実施**するため、地域中小企業にも作業負担をしていただく必要があります。また、本プロジェクトで目指すデジタル化は、デジタル化による業務改善ではなく、新たな価値を創出するためのデジタル化となります。そのため、プロジェクトに参加する候補企業は、“**トランスフォーメーションへの意欲があるか**”、“**受入体制は整備できるか**”、“**地域課題への関心や貢献意欲があるか**”といった観点から選定をおこなうようにしてください。候補企業を選定する際には、“**お付き合い**”で**企業が参加することがないよう留意**してください。プログラムでは地域中小企業にも負担が生じるため、“お付き合い”の関係で参加するとプログラムの最後まで“協働”することが難しくなります。



■ 具体的な手順

STEP1 トランスフォーメーション への意欲

デジタル化だけに閉じず、これからの企業成長を支える**新たな価値の創出への関心はあるか**、既存のビジネスモデルにとらわれない**新たなビジネスモデルの検討に関心があるか**といった観点で、トランスフォーメーションのある企業かを見極めをしてください。これまでの実績から判断する場合は、「地域未来牽引企業」の選定企業や経営支援機関との連携実績等を参考にしてください。

STEP2 受入体制の整備

高度デジタル人材との協働を進めていく中では、経営状況や今後の経営ビジョン等の情報が不可欠となるため、**プロジェクトへの経営陣のコミットメント**と、新たなビジネスモデル案を現場に落とし込んでいくために**現場社員の巻き込み**が重要となります。そのため、地域中小企業側で、経営陣と現場社員からなるプロジェクトチームを組成し、受入れ体制を整備できるか確認をしてください。

STEP3 地域課題への関心や 貢献意欲

高度デジタル人材が地域で活動する最大のインセンティブは、本業や都市部では携われない**地域課題の解決に資する取組**に関われることです。**個社の課題解決が地域の課題解決につながるような企業や地域課題の解決に関心のある企業**をプロジェクト参加候補企業として積極的にリストアップするようにしてください。

B-1. 候補企業の要件整理ワークシート

地域中小企業がプロジェクトに適切か見極めるために、下記のワークシートを使って候補企業のチェックをしてください。
全てにチェックがつく必要はありませんが、“受入体制の整備”はプロジェクト開始までにすべての項目にチェックがつくように働きかけてください。

候補企業名	STEP1 トランスフォーメーション への意欲				STEP2 受入体制の整備			STEP3 地域課題への 関心や貢献意欲		
	地域未来牽引 企業の認定	公的機関からの 経営革新の認定	経営者がビジョ ンを語るか	デジタル化に 積極的か	経営者の参加	現場の巻き込み	プロジェクト チームの組成	地域課題に直結 する事業か	地域課題解決に 積極的か	地域の活動に 積極的か
	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

B-2.地域中小企業の募集

候補企業の
要件整理

地域中小企業
募集

経営課題抽出・
人材ニーズの
具体化

人材の関心に
応じた情報提供
(人材募集含む)

フィールドワーク
アーの実施

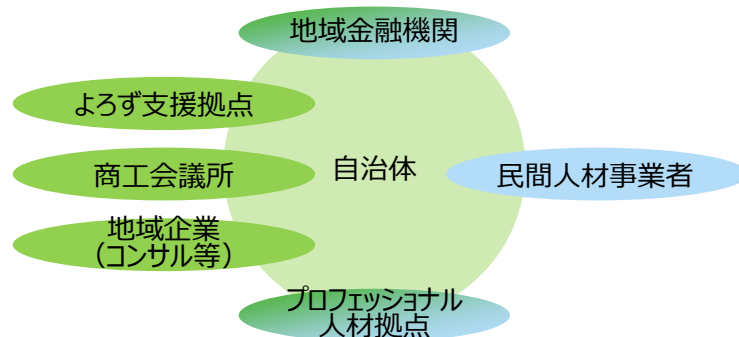
伴走支援

プロジェクトに参加する地域中小企業には前項に記載したように多くのことが求められ、公開情報のみで判断することが難しいです。そのため、地域中小企業の支援を行っている機関と連携して募集を行うことで、効率的かつ効果的に候補企業を選定できます。

プログラムに参加する地域中小企業に求めること

プログラムに参加する地域中小企業は、前項で整理した“トランスフォーメーションへの意欲があるか”、“受入れ体制の整備ができるか”、“地域課題への関心や貢献意欲があるか”の3つの観点から選定する必要があります。しかし、こうした情報は公開情報だけから判断することは難しいのが現状です。そこで、日常的に地域中小企業とコミュニケーションをとっている機関と連携して募集を行うことで効率的かつ効果的に候補先企業を選定できます。具体的には、地域金融機関、経営支援機関としてのよろず支援拠点、商工会議所、コンサル等の地域企業、民間人材事業者、内閣府が各府道県に設置しているプロフェッショナル人材拠点等が連携先候補となります。

自治体がハブとなって、これらの機関と連携する上で、自治体はプログラム設計や全体管理の役割も担うことが期待されます。



■ 具体的な手順

STEP1

既存の候補先企業の
棚卸

既にネットワークを有している候補企業を棚卸するとともに、前項の候補企業チェックリストに追記して、プログラムに適した企業が確認をしてください。

STEP2

連携機関の検討

地域中小企業とのネットワークを有する経営支援機関や地域金融機関、民間人材事業者、内閣府のプロフェッショナル人材拠点等との連携について検討してください。

B-2.地域中小企業の募集ワークシート

候補企業の募集を行うために、既存のネットワークがある候補企業を棚卸し、その他の企業にアプローチするために有効と思われる連携機関について検討してください。

STEP1

既存の候補先企業の
棚卸

- 「B-1.」の候補企業チェックリスト（ワークシート）に追記してください

地域金融機関

経営支援機関

STEP2

連携機関の検討

地域企業(コンサル等)

人材事業者

B-3.経営課題の抽出/人材ニーズの具体化

候補企業の
要件整理

地域中小企業
募集

経営課題抽出・
人材ニーズの
具体化

人材の関心に
応じた情報提供
(人材募集含む)

フィールドワーク
アーの実施

伴走支援

プロジェクトで扱うテーマや課題は高度デジタル人材が設定しますが、その前提となる経営課題を候補企業が予め整理しておくことが重要です。また、地域中小企業としても、経営課題に応じてどのような専門性を持つ高度デジタル人材が必要になるかイメージできていると効率的にマッチングできます。

候補企業の企業情報を整理する

フィールドワークツアーでは、現地視察や意見交換等を通じて、地域中小企業のニーズと高度デジタル人材のシーズを踏まえたマッチングが行われます。そのため、**事前に候補企業となる地域中小企業の経営課題と人材ニーズを具体化することが重要となります。**

■ 具体的な手順

STEP1 経営課題の棚卸

高度デジタル人材に支援して欲しいこととは切り離して、原点に立ち返り、事業を持続的に成長させていく上で直面している課題を考えてください。

STEP2 将来目指す姿の検討

5年後、10年後を見据えてどのような企業になりたいかビジョンを考えてください。

STEP3 経営課題の具体化

ビジョンを実現する上で、現在取り組んでいるが壁にぶつかっていること、リソース不足で対応できていないこと、どのように取り組みを始めたらいかが分からないことを考えてください。

STEP4 高度デジタル人材と取り組みたい課題の選択

具体化した経営課題の中で優先順位をつけ、高度デジタル人材と取り組む課題のイメージを持てるようにしてください。ただし、高度デジタル人材との対話の中で、新たな課題が抽出されたり、優先順位が変わったりすることがありますが、その際は柔軟に対応してください。

STEP5 マッチングしたい高度デジタル人材の検討

選択した課題に応じて、どのような専門性を有した高度デジタル人材とのマッチングを希望するか検討してください。

B-3.経営課題の抽出/人材ニーズの具体化ワークシート

候補企業へのインタビューもしくはワークシートへの記入を通じて、候補企業の経営課題と経営課題に応じた高度デジタル人材のイメージを検討サポートしてください。

STEP1

経営課題の棚卸

- 貴社はどんな会社ですか？端的に書き出してください。

STEP2

将来目指す姿の検討

- 5年後どのような会社になりたいですか？（最も近いものを1つ選択）

既存の事業に集中し、安定した成長

既存の事業について更なる事業規模の拡大

既存の事業留まらず、新規事業の創出

事業規模の拡大や複数の新規事業創出等
の大変革を志向

- 5年後の具体的なビジョンを書き出してください。

STEP3

経営課題の具体化

- ビジョンを実現する上で壁となっていることは何ですか？

B-3.経営課題の抽出/人材ニーズの具体化ワークシート

STEP4

高度デジタル人材と取り
組みたい課題の選択

- ビジョンを実現する上での壁について、今考えられる解決策について書き出してください。

①業務の外部化による解決策

②ITやデジタル化による解決策

③人材活用による解決策

- 地域中小企業の課題解決に必要と思われる高度デジタル人材を検討してください。

ビジネス アーキテクト	デジタル技術を理解して、 ビジネスの現場においてデジタル技術の導入を行う全体設計 ができる人材
データサイエンティスト	統計等の知識を元に、 AIを活用してビッグデータから新たな知見を引き出し 、価値を創造する人材
エンジニア・ オペレータ	クラウド等のデジタル技術を理解し、業務ニーズに合わせて必要な ITシステムの実装やそれを支える基盤の安定稼働 を実現できる人材
サイバーセキュリティ スペシャリスト	業務プロセスを支える ITシステムをサイバー攻撃の脅威から守る セキュリティ専門人材
UI/UX デザイナー	顧客との接点に 必要な機能とデザイン を検討し、システムの ユーザー向け設計 を担う人材

STEP5

マッチングしたい高度デ
ジタル人材の検討

Memo

[illegible]

B-4.人材の関心に応じた情報提供 (人材募集含む)

候補企業の
要件整理

地域中小企業
募集

経営課題抽出・
人材ニーズの
具体化

人材の関心に応じた情報提供
(人材募集含む)

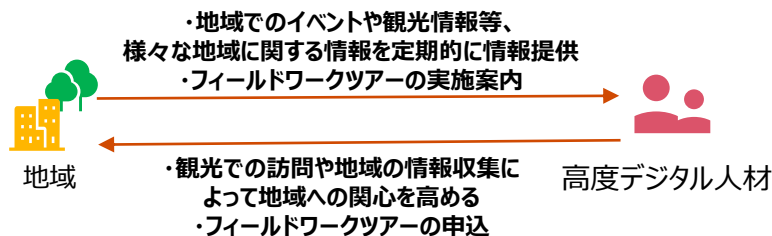
フィールドワーク
ツアーの実施

伴走支援

ミートアップイベントで関係人口となった高度デジタル人材との関係性を維持するために、人材の関心に応じた情報提供を継続的に行うことが重要となります。また、フィールドワークツアー実施時には、募集・選定を行う必要があります。

情報提供の役割

ミートアップイベントで高まった高度デジタル人材の地域への関心も、フィールドワークツアーの人材募集までの期間が空くと、下がってしまいます。そこで、地域でのイベントや観光情報等を定期的に発信し、自発的に地域に観光で訪れたり、地域のことを調べたり、**地域のことをもっと知ってもらうためのきっかけ作り**として積極的に情報提供してください。また、フィールドワークツアーの企画が固まってきたら、段階的に情報を公開し、期待値を高めると共に、募集に向けた準備を始めるようにしてください。



■ 具体的な手順

STEP1 提供する情報の検討

地域の観光やイベントといった地域を訪れてみたいと思う情報や、地域中小企業のイメージを持ちやすくするための産業に関する情報、地域で活躍する人材に関する情報等、様々な地域に関する情報を定期的に提供してください。

STEP2 情報提供方法の検討

メールマガジンで高度デジタル人材に対して一斉配信することも可能ですが、地域における高度デジタル人材のコミュニティを形成する観点から、情報発信は地域からだけでなく、高度デジタル人材からも地域やデジタルに関する情報を発信できるようにしたり、地域が発信した情報にリアクションをとれるようにしたりすることが有効です。そのため、FacebookやSlack、LINEといったSNSを活用して、双方向の情報提供ができるように検討してみてください。

STEP3 地域中小企業の課題に応じた人材の募集

フィールドワークツアーには、プログラムに参加する地域中小企業が「B-3.経営課題の抽出/人材ニーズの具体化」で整理した経営課題および人材ニーズに適合した人材を呼び込むことが重要となります。ミートアップイベントで意見交換した際に、条件に適合する人材と出会っていた場合は、積極的に参加を呼び掛けてください。参加を呼び掛ける際には、地域や地域中小企業からの期待を伝えることが有効です。

B-4.人材の関心に応じた情報提供（人材募集含む）ワークシート

■ワークシート（人材への情報提供の検討）

STEP1 提供する情報の検討

● どのような情報を提供していきますか？

☐観光情報 ☐イベント情報 ☐地域課題 ☐産業に関するニュース

☐地域の時事ネタ ☐地域で活躍する人材 ☐その他（具体的に： ）

STEP2 情報提供方法の検討

● どのような方法で人材に情報提供しますか？

☐メールマガジン ☐グループチャット ☐SNS ☐その他（具体的に： ）

● どれくらいの頻度で情報提供しますか？

☐週に1回 ☐隔週 ☐月に1回 ☐随時

● 情報発信は誰が担当しますか？

STEP3 フィールドワークツアーの 人材募集・選定

● ミートアップイベントの参加者に、B-3で整理した人材ニーズに適合する人材いましたか？

☐はい ☐いいえ➡（「いいえ」の場合でも、参加者でチームを組めば人材ニーズに近づける場合は、次の質問へ）

● 適合する人材がいた場合は、その方の名前と地域/地域中小企業からの期待を教えてください。

名前

地域/地域中小企業からの期待

B-5.フィールドワークツアーの実施

候補企業の
要件整理

地域中小企業
募集

経営課題抽出・
人材ニーズの
具体化

人材の関心に
応じた情報提供
(人材募集含む)

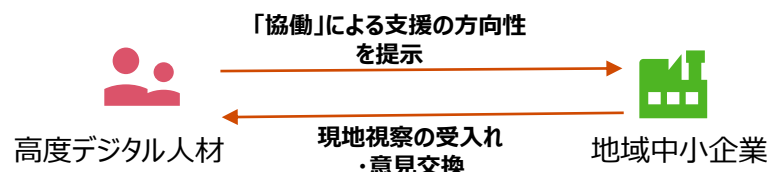
フィールドワーク
ツアーの実施

伴走支援

高度デジタル人材と地域中小企業とのマッチングを図るために、現地訪問によるフィールドワークツアーを開催します。フィールドワークツアーでは、地域企業とのオンサイトならではの意見交換や地域の魅力・課題を体感できる工夫が重要となります。

フィールドワークツアーの位置づけ

フィールドワークツアーは、地域の関係人口となった高度デジタル人材が地域を訪問し、地域中小企業の現地視察や意見交換等を通じて、高度デジタル人材と地域中小企業をマッチングを行うためのプロセスです。高度デジタル人材と地域中小企業の関係性も、地域との関係性と同様に**win-win**かつ**対等な関係性の構築に加え、信頼関係を築けるよう**に工夫することが重要となります。



■ 具体的な手順

STEP1 開催概要の検討

フィールドワークツアーは、企業との意見交換だけでなく、地域に滞在することで地域の魅力や課題を体感してもらうことも重要な要素となります。そのため、**開催日程は2泊3日以上**が望ましいです。また、高度デジタル人材に地域で長期滞在していただきたい場合には、開催期間を4～5日とし、午前中はリモートワークで本業に従事してもらい、午後をフィールドワークツアーに充てることも有効な施策となります。

STEP2 受入環境の整備

活動拠点

オリエンテーションや高度デジタル人材間でのディスカッション、企業へのプレゼンテーション等を行うための拠点が必要となります。拠点は、庁舎やホテルの会議室、コワーキングスペース等の形態は問いませんが、Wi-fi環境、ホワイトボードや大型モニター等を備えていることが望ましいです。

移動手段

企業訪問等で公共交通機関の便が悪い場合は、効率的に移動するために、公用車や貸し切りバス等を用意することが望ましいです。

環境整備

高度デジタル人材は副業として参加するため、フィールドワークツアー以降の活動については、謝金(日当)及び交通費を支給することが望ましいです。

STEP3 ツアー内容の外部発信

ツアー内容を外部発信することは、今後の人材募集に効果的であることに加えて、地域のデジタル化の機運醸成に繋がりますので、積極的に外部発信に取り組んでください。

B-5.フィールドワークツアーの実施

候補企業の
要件整理

地域中小企業
募集

経営課題抽出・
人材ニーズの
具体化

人材の関心に
応じた情報提供
(人材募集含む)

フィールドワーク
ツアーの実施

伴走支援

STEP4 ツアー内容の検討

オリエンテーション

- ・高度デジタル人材間によるアイスブレイク
- ・3日間の行程説明
- ・地域の概要説明（魅力・ビジョン・課題等）
- ・訪問する企業の概要説明

企業訪問

- ・生産工程や商品・サービス等の現場視察
- ・事前顔あわせと現場視察を踏まえた意見交換

企業へのプレゼンテーション

- ・企業課題に対する支援の方向性を企業に対して発表・質疑

	1日目	2日目	3日目
AM	・現地への移動	・企業訪問② ・企業訪問③	・プレゼンテーション準備
PM	・オリエンテーション ・企業訪問① ・高度デジタル人材間でのディスカッション	・企業訪問④ ・観光地等地域を理解できる場所の視察 ・高度デジタル人材間でのディスカッション	・企業へのプレゼンテーション

高度デジタル人材が現地を訪問できる機会は限られおり、オンサイトでしか得られない情報提供や高度デジタル人材と地域・地域中小企業との信頼関係構築の場として活用してください。

現地訪問の効果を高めるためには、地域中小企業には前項で説明した経営課題の抽出・人材ニーズの具体化に取り組んだ上で、事前にオンラインで顔合わせを実施しておくことが有効です。

■事前顔合わせ概要

開催形態 : オンライン

開催時間 : 60分程度/社

アジェンダ : ・企業紹介（事業概要、経営課題・ビジョンの説明）（20分程度）

・高度デジタル人材の自己紹介（10分程度）

・質疑応答（20分程度）

・フィールドワークツアーで見学したい内容、開示して欲しいデータ等の要望確認（10分程度）

B-5.フィールドワークツアーの実施ワークシート

下記のワークシートを使って、フィールドワークツアーの実施計画骨子を検討してください。

STEP1 開催概要の検討

●何日間で実施しますか？

☐ 2日間 ☐ 3日間 ☐ 4日間 ☐ 5日間

●開催日程候補はいつですか？

●高度デジタル人材を何名募集しますか？

STEP2 受入環境の整備

●活動拠点となる会場はどこを想定していますか？

☐ 庁舎の会議室 ☐ ホテル等の貸し会議室 ☐ コワーキングスペース ☐ その他(具体的に：)

●活動拠点には必要な環境がそろっていますか？

☐ プレゼンテーションができるスペース ☐ ディスカッションができるスペース

☐ 資料作成等の作業ができるスペース ☐ プレゼンテーション用の大型モニターもしくはプロジェクター

☐ ホワイトボード ☐ インターネット環境

●企業訪問等の高度デジタル人材の地域内での移動手段はどうしますか？

☐ 公共交通機関 ☐ 公用車 ☐ レンタカー ☐ 貸し切りバス ☐ その他(具体的に：)

●高度デジタル人材の現地までの交通費支給はどうしますか？

☐ 支給しない ☐ 実費支給 ☐ 上限を決めて実費支給 ☐ 定額支給

●高度デジタル人材のフィールドワークツアー以降の活動への謝金はどうしますか？

☐ 支給しない ☐ フィールドワークツアーのみ支給 ☐ 企業との個別支援のみ支給 ☐ 全ての活動に支給

B-5.フィールドワークツアーの実施ワークシート

STEP3

ツアー内容の外部発信

- フィールドワークツアーの取組を外部発信する方法を選択してください。

☐ HPでの開催レポート掲載 ☐ 自治体の広報誌・HPでの開催レポート掲載

☐ SNSでの記事掲載 ☐ プレスリリース ☐ メディアへの取材依頼

☐ その他（具体的に： _____）

- プログラムに参加してもらう地域中小企業を記載してください。

- 地域の魅力を伝えるために訪問する施設や観光地等の候補を記載してください。

- 事前の顔合わせは実施しますか？

☐ 実施する ☐ 実施しない

- 事前の顔合わせの参加者はどういった方にお願いしますか？

☐ プログラム参加企業 ☐ 自治体 ☐ 地方版IoT推進ラボ/地域DXラボ ☐ 地域金融機関 ☐ 経営支援機関

☐ その他連携機関 ☐ その他（具体的に： _____）

STEP4

ツアー内容の検討

B-6.企業と人材による協働プロジェクトの 伴走支援

候補企業の
要件整理

地域中小企業
募集

経営課題抽出・
人材ニーズの
具体化

人材の関心に
応じた情報提供
(人材募集含む)

フィールドワーク
ツアーの実施

伴走支援

フィールドワークツアーで個別の地域中小企業とマッチングした後は、進捗確認や個別支援、地域情報の定期的な提供などを行い、プロジェクトの伴走支援を行ってください。

伴走支援の位置づけ

フィールドワークツアーによって、高度デジタル人材と地域中小企業のマッチングが成立した後は、高度デジタル人材と地域中小企業の2者でプロジェクトを進めることになるが、プロジェクトを円滑に進めるために、**地域は、“進捗確認”、“個別支援”、“地域情報の提供”の3つの役割を果たす必要**があります。



■ 具体的な手順

STEP1 進捗確認方法の検討

個別の進捗把握ではなく、マイルストーンで管理することで効率的に進捗確認できます。

■ マイルストーン例

- ・ 月次定例会：高度デジタル人材と地域で月1回程度意見交換・進捗確認・サポートを実施
- ・ 中間報告会：プロジェクト期間の中間地点で、地域中小企業・地域の関係者等が参加する中で取組内容・進捗状況について発表
- ・ 最終報告会：プロジェクトの成果報告を地域中小企業・地域の関係者等が参加し、発表

STEP2 個別支援の実施

プロジェクトにおいて課題解決に取り組むのは高度デジタル人材ですが、**企画・構想に向けての壁打ち役や自治体や地域のキーマン等の紹介等**、プロジェクトの進捗に応じた個別の支援を行ってください。

STEP3 地域情報の提供

高度デジタル人材の地域への愛着はプロジェクトへのモチベーションやコミットメントに直結します。
「A-4.人材の関心に応じた情報提供」と同様に、プロジェクト期間中も継続的な情報提供を行うようにしてください。

B-6.企業と人材による協働プロジェクトの伴走支援ワークシート

下記のワークシートを使って、どのような伴走支援を実施するか検討してください。

STEP1 進捗確認方法の検討

- 個別の地域企業への支援の進捗を把握するために実施することを書き出してください

☐ 地域中小企業との打ち合わせを行うごとに高度デジタル人材からレポート提出

☐ 月次定例会を開催し、チーム内で各地域中小企業の支援状況を共有

☐ 中間報告会を開催して、プロジェクトの方向性・検討状況等を取りまとめる

☐ 最終報告会を開催して、支援した成果を取りまとめる

STEP2 地域との橋渡し役

- プロジェクトのアドバイザーとなるような地域のキーマンは誰ですか？

地域社会・経済
のハブ役

地域で活躍する
人材

大学教員

経営支援機関等

STEP3 地域情報の提供

- どのような情報を提供していきますか？

☐ 観光情報 ☐ イベント情報 ☐ 地域課題 ☐ 産業に関するニュース

☐ 地域の時事ネタ ☐ 地域で活躍する人材 ☐ その他（具体的に： ）

- どのような方法で人材に情報提供しますか？

☐ メールマガジン ☐ グループチャット ☐ SNS ☐ その他（具体的に： ）

- どれくらいの頻度で情報提供しますか？

☐ 週に1回 ☐ 隔週 ☐ 月に1回 ☐ 随時

- 情報発信は誰が担当しますか？